

## 2020 年度の基本方針と事業計画

2020 年初頭から起こった新型コロナウイルス感染問題。

困難な社会状況の中で、ピッピ親子サポートネットの基本姿勢～働いていなくても預かる、ともに育ち・ともに暮らす、場をひらく、現場から社会をかえる～のもと、目の前の課題にタイムリーに、臨機応変に判断し法人全体の人的・物的資源を活かして対応していきます。

この問題の収束が長引けば、包括的な事業の見直しや縮小も避けられない状況となるかもしれません。引き続き危機管理対策に努めながら、法人内外の知恵を集めて対応していきます。事業計画及び予算案については当面の見通しをもとに立て、必要に応じて見直すこととします。

### <保育事業>

新型コロナウイルス感染防止対策として、国の緊急事態宣言を受け利用自粛の協力要請をおこなっています。様々な制約もあり経験したことのない状況ですが、全力で安全対策に取り組んでいます。「笑い触れ合って過ごす」という保育園では当たり前の子どもたちの姿が見られない「日常」とは異なる日々が続いています。しかし、このような時だからこそ、子どもたちにとって大切なこと、保育園に必要とされていることは何なのかを考えていきます。

### ピッピ保育園

新しい保育体制を整えていきます。また、2025 年に向けて、法人の 3 つのプロジェクトに参加し未来を描いていきます。

1. 一人ひとりを大切に、主体的な活動をしながら生きる力を応援していきます。また、地域の子育て支援拠点としての取り組みを行います。
  - 認可保育定員 28 人、一時保育定員 12 人、休日一時保育定員 6 人
  - 自然に触れる活動、まち保育、防災ワークショップ
  - 食育の実践
  - ケース検討会議の開催
2. ピッピみんなの保育園やりとるピッピ、大場りとるピッピと交流をはかります。
3. 関係機関と連携し子どもとその家族を応援します。
4. 地域の保育所、連合自治会や民生委員などとの交流・連携をはかります。青葉福祉ユニットに参加し政策提案に取り組みます。

### ピッピみんなの保育園

開所 3 年目を迎え、新たなメンバーと子どもたちが加わり定員 30 人となりました。

子どもと保護者の気持ちに寄り添い、ソーシャルワークの視点を持ち保育にあたります。

引き続き、食育の実践や、まち保育ワークショップや地域との交流も進めます。

1. 子どもたちが主体的に活動し、遊びに夢中になれる環境を整えていきます。
2. 保育の質の向上をめざし研修に積極的に参加します。
3. ピっぴ保育園やりとるピっぴと連携し保育にあたります。小学校や地域とも連携を深めます。
4. 子育て支援チームと連携し親子ルームの活動を推進します。

## りとる・ピっぴ

7人の新入園児が仲間に加わります。コロナウィルス感染症拡大という一大事の中、“小規模保育だからできること”をスタッフ全員で考えています。社会の大きな変化の渦中においても、私たちの土台となるのは、「子どもたちひとりひとりを見守る」「様々な家庭と向き合い寄り添う」という基本姿勢です。保育者の「気づく、共有する、みんなで考える、実行していく」というプロセスを大切にします。

1. 乳幼児における質の高い保育を提供するために、保育の専門性を再確認し、実践と振り返りを重ねます。
2. 様々なツールを活用し 子どもたちの様子をより丁寧に伝えていきます。
3. ピっぴ保育園とピっぴみんなの保育園、大場りとるピっぴと協力し交流していきます。
4. 全国小規模保育協議会・横浜連絡会に参加します。

## <親子支援>

### ピっぴおやこの広場はっぴい、一時預かりのおへやここ・はっぴい

いつでも開いている広場を今は開くことができません。そんな状況でも、一時預かりの場があることを活かして親子に寄り添う支援に取り組みます。法人の研修や SW、外部連携・研修の参加を積極的に進めまスキルアップにつとめます。はっぴいず 5 か年計画での討議や、法人 5 か年プロジェクトの新たな取り組みや出会いを今後の私たちの活動につなげていきます。

#### ◆ピっぴおやこの広場はっぴい◆

第二の我が家のように家庭的でほっとくつろげる親子の居場所、多様な人々が出会い自然につながる合える広場づくりをめざします。閉所中にできる利用者へのアプローチに知恵を出し合い、つながりが持続するように努力します。

1. 妊娠期から学童期にかけての身近な相談者として切れ目のないつながりができるような取り組みを実施します。
- イベント、オンライン広場、土曜広場の開催
  - HP の活用

2. 子育ての困り感を軽減するために、一時預かりや産前産後ヘルパーなどの情報提供や子育てパートナー・保健師・他事業所と連携します。

#### ◆一時預かりのおへやここ・はっぴい◆

子ども一人ひとりの気持ちに寄り添った保育を行います。発達に課題の見られる子ども、配慮の必要な子どもも、安心して過ごせるようきめ細やかな保育を行います。保護者との対話を大切に、想いを聞き取り、子どもの育ちを共に考えるよう努めます。

1. 他事業所、区・子育て支援拠点・療育センターなど専門機関との情報共有・連携をして対応します。
2. 一人ひとりが主体的に保育に携わり、気付きを出し合いより良い保育環境を作っていくとともに、働きやすい環境づくりに向け日々の業務の見直しをすすめます。
3. 横浜ユニット連絡会、青葉福祉ユニットなどと共に引き続き政策提案に取り組みます。

### <学齢期の親子支援>

#### となりのいえ

放課後等デイサービス、相談支援事業、放課後児童クラブの3事業が連携し、子ども達に寄り添う居心地の良い場所の提供をめざします。ソーシャルワークのニーズに応えるための取り組みを積極的に行ないます。

1. 安全に配慮し、子ども達にとって過剰な刺激のない適切であり、また、スタッフにとっても働きやすい環境整備を進めます。
2. インターンシップの受入れを進め、相互に学び合う機会を積極的に作っていきます。地域との接点を大切にします。
3. 障害特性や支援の方法をテーマに、内部・外部研修に参加します。スタッフ間で共有し事業所内のスキルアップをめざします。
4. 他事業所、他団体との連携

青葉区、都筑区の自立支援協議会、地域活動ホーム、基幹相談支援センター、法人内外の他事業所との連携を深めます。

#### ◆学童保育◆

放課後の居場所として、家庭的で安心できる環境づくりに配慮し、ひとりひとりに寄り添い子ども達がありのままに居られる場を作っていきます。

●2020年度新規受け入れ:1年生6人 定期利用37人、不定期利用10人  
合計47人の登録

1. 食と遊びを中心にした活動をすすめるための環境整備を行います。
2. 取り巻く状況を観察し、スタッフ連携に力を入れ、スキルアップに努めます。

#### ◆ピピピデイサービス◆

子どもの持っている強みを十分活かせるように、活動内容や関わり方の工夫をしていき

ます。障害特性の理解を深め、子どもの状態に配慮した支援を行ない、スキルを身につけると共に、利用者、スタッフ相互の安全を第一に考えていきます。

- 2020年度新規受入れ：小学1年生～中学生5人、高校生21人、中学生15人、小学生22人、合計58人(定員10人、2単位で運営)

#### ◆相談支援事業◆

利用者一人ひとりに向き合い、情報収集と関係機関の連携に努めます。未就学からの受入れ、成人への送り出しをそれぞれ丁寧に行い、スムーズなステージ移行をめざします。世代交代を進め、利用を待っている方たちのため、相談支援専門員を増やしていきます。

### <多世代支援>

#### ヘルパーステーションみんなのいえ

介護保険制度は、少しの生活援助があれば自宅で生活できる人の利用時間が制限され介護度が上がれば自宅での生活が難しくなり、訪問介護のヘルパーの利用は減少しています。

一方で障害者や子ども支援のためのヘルパー依頼は増加し、ヘルパーのスキルや関係機関との連携も重要になっています。何よりもヘルパーの確保が必要です。法人のプロジェクトに参加し、訪問ヘルパーの仕事の持続可能性を検討するとともに、法人内他事業所との連携も深めていきます。

1. 障害の特性を踏まえたスキルアップをめざします。
2. デイさくらとケース検討会を共催し情報共有をはかり事業に活かします。
3. 法人SW検討会等に参加します。
4. 独自事業「木曜サロンみんなのいえ」は気楽に立ち寄れるサロンとして継続します

#### 大場町みんなのいえ わたせハウス3事業

昨年度末に新型コロナウイルス対策に追われる日々が始まり、サロンイベントはすべて休止し、保育、デイサービス事業も小規模をさらに縮小する事態となりました。その後「緊急事態宣言」が出され、多くの利用者・保護者の利用自粛が続いています。この状態が長期化すると、乳幼児とお年寄りが一緒に過ごすこと自体が難しくなるかもしれません。渦中の3つの事業がそれぞれ今なすべきこと、そしてコロナウイルス感染収束後のことも考えつつ行動していきます。

#### ◆サロン&まちの台所◆

1. 「食」を中心に据えさらに工夫を重ねます。
2. 地域の高齢者とつながる仕掛けづくりを企画します。
3. 子育て世代に場を開くことを検討します。
4. サロン企画の、「映画を観る会」を継続します。

#### ◆大場りとり・ピッピー◆

大場りとは、自然に親しみ、のどかでおおらかな育ちの場であり、様々な人たちのまなざしがそそがれる安心できる場です。今は、先が見えない状況ですが、だからこそ、子どもにも保護者にも丁寧な関わりを重ねていきます。

1. 行政対応や会計事務を整理し現スタッフで担える体制づくりを進めます。
2. 日常的に他の保育事業と連携するとともに、法人プロジェクトに参加し、今後の保育事業について考えます。

#### ◆デイサービスさくら◆

新型コロナウイルス緊急事態宣言後、利用の対象を縮小し、代替サービスに切り替える対応を取りました。今後の動向を注視し利用者やスタッフの健康と命を守ることを最優先に運営を続けていきます。利用者の本来持っている能力を引き出し、可能な限り自立し暮らし続けられるよう生活機能の維持・向上に向け計画を立て取り組みます。

1. 「特色あるアクティビティ」を取り入れ、場を活かした土曜日の開所をめざします。
2. ケース会議を充実させ、日々のできごとから学び合いを進めます。
3. ヘルパーステーションみんなのいえと連携し、今後の事業の方向性を検討します。